

大道芸ワールドカップ in 静岡についての意見交換会 要旨

2022 年 12 月 20 日(火)
大道芸ワールドカップ実行委員会

大道芸ワールドカップ実行委員会では、『大道芸ワールドカップ問題における経緯説明・改善策公表と意見交換会開催についての要望』を受け、2022 年 12 月 20 日に、アーティスト、イベント関係者、商店会関係者の方々9人と実行委員会側8人で意見交換会を開きました。

以下は、12月20日に開かれた意見交換会の要旨です。質問者側から事前にいただいた質問事項に対して、書面と口頭による回答を合わせてまとめました。掲載内容以外にも意見が交わされましたが、ここでは書面による質問に対する回答を記述しました。

実行委員会では、この会でいただいた意見を真摯に受け止め、今後の活動に生かしていきたいと考えています。

■議事内容（大項目）

- ①今年の前プロデューサーによる差別の問題について
- ②運営の在り方について
- ③今後の運営方針について

1. 今年の前プロデューサーによる差別の問題について

中項目 1. 組織として差別に対しての受け止め方

質問① 組織として差別に対しての受け止め方

回答① 差別発言は、世界に開かれた大道芸ワールドカップの精神を裏切るもので、言語道断と捉えており、二度と同じ過ちを繰り返さないようにしなければならない。

質問② 資料を見て問題視する声があったが、その時点で内容を精査しなかったのはなぜか

回答② 当日、研修会の中で前プロデューサー氏に直接問い質すことで修正できると考えていた。認識が甘かったと反省している。

質問③ 20人近い実行委員が資料を見ていて、違和感を感じる声もあったが、マネージャー、サブマネージャーに意見が伝わる連絡網であったか？

回答③ この日の講師前プロデューサーから副委員長、運営主催のチームリーダーAさん、Aさんからパフォーマンスグループのマネージャー、サブマネージャー、グループメンバーへ展開することになっていた。

中項目 2. 差別のない大会づくりになにが必要なのか？

質問① 組織として今年の問題をどう捉えて、意識改革をし再発防止していくか

- 回答① ・この問題を受けて、発言したプロデューサーを解任、委員長が引責辞任。
組織としては、最大限の処分を下した。
- ・再発防止策として、実行委員会全体に対して横断的に関わっていく組織管理グループを設置し、研修内容、使用する資料、文書等を複眼でチェックすることにした。
 - ・大会開催前にボランティア憲章についてのメッセージをボランティアスタッフに送り、差別の問題を含め、人への接し方について考えていただくよう求めた。

質問② グローバルなイベントとして続けていく上で差別を許さない組織体制への取り組み

- 回答② ・実行委員会メンバーには、「差別のないクリーンな取り組み」の重要性を説いていく必要があると考えている。
- ・実行委員、当日ボランティアを対象とした研修会を開き、高い意識を持ってもらえるよう共に学んでいく。

2. 運営の在り方について

中項目 1. 市の公金を使う事業としての公共性 -

質問① 一部スポンサーとの関わり方

前プロデューサーの就任にはスポンサーからの斡旋であったと聞いている。経緯はどうあれ、多額な公金が使われている事業において、スポンサーが人事や内政に干渉することは公共性の観点から問題をはらんでいると思う。

また、このスポンサーから実行委員会は事務局物件を提供してもらっていると思うが、この事がスポンサーの過度な内部干渉に影響しているのだとしたら、今後スポンサーとどのように適切な距離を持ち、公正な関係性を構築していくのが良いか。組織としての考えを聞きたい。

回答① 一部スポンサーとの関わり方について、スポンサーからの過度な影響を受けているというような指摘があったが、それは一切ない。

この2022年の大会の中で、経験してきた中ではスポンサーからの意向が大会に反映されたということは一切もない。

質問② 街作りとして地域の魅力活力を高めるためにはその町に住み生活する方々の意見が必要不可欠だと考えている。現在、実行委員会の運営に街の声が十分取り入れられているとは思えないため、定期的に実行委員会の会議に参加してもらうなど、年間を通じて継続的に関わりを持っていくべきと思うがどうか。

回答② 街と共に意見交換をしながらイベントを作っていく姿勢は、重要なことと考えている。

2023年がどういう形で行われるかまだ分からないが、実現するのであれば、是非とも街とよく話し合っ
てやっていきたいと思う。

質問③ 出店に関しても現在広く窓口が開かれているとは言い難く、不十分であると考えているがどうか。

回答③ 飲食、キッチンカーなどの出店業者の選定が閉鎖的との指摘を受けた事については、2019年以前は、実績者を優先する形を取っていたが、2022年度は実績者への案内に加えて大道芸ワールドカップのホームページでも出店者の募集をした。この結果新規の業者も参入すること

になった。

質問④ 実行委員で自らの本業の利益になるような行為があると聞いている。これはボランティアである実行委員会のあり方としてはあってはならないことだと思うがどうか。

回答④・市の補助金が入っている事業として、2022年度は以下の大道芸ワールドカップ実行委員会の規約、各規則に則り、すべての運営を公正に行っている。

- ・財務規則に則り、財務及び、会計処理を行っている。
- ・業務を発注する際の契約についても、財務規則に沿ってプロポーザル、競争入札及び随意契約を行っている。
- ・任期付職員等就業規則（就業規則）就業規則の中の服務規律には遵守事項として、取引先等より不当な金品又は利益を受け、若しくはこれを贈与してはならないとある。当委員会では利害関係が生ずる業者からの酒食、ゴルフ等の接待について、そのような事実は認められなかった。
- ・その他に旅費規則も定めており、職員の交通費は規則により支払いを行っている。
また、出張旅費についても規定を定めているが、今年度は現時点で出張旅費の支出がない。
- ・実行委員の中に取引先に関係する人がいるかどうかについてヒヤリングをしたが、業者選定の権限を持つ実行委員の中に、設営、警備、印刷等の取引業者と関係する人はいなかった。
また、事務局内で使用する事務用品についても、取引相手が独占的にならないように分散して発注している。伝票処理なども市役所の助言を受けながら厳正に行っている。

質問⑤ イベントを作る上で企画設営業者との関わり方について。過去、長年付き合いがあったイベント会社との間で経理に関する不明瞭な点が多々あり問題になったと聞いている。

今年の大会中もそのイベント会社の関係者が本イベントに出入りしているという報告を受けている。

今後公正に委託業者と付き合いしていくための取り組みや、委託業者との契約に関して透明性や公平性を保つための実行委員会の方針を伺いたい。

回答⑤ イベントを作る上で企画設営業者との関わり方について。

2022年に関しては、設営業者、警備等、主な作業をしていただく業者に関しては、全てプロポーザル、あるいは競争入札、見積もり合わせという形で行っていた。

2022年は経費の節減にも努めたので、そういった意味ではプロポーザルとか入札制度を市と一緒に取り組んだ事が、その成果に繋がったと思っている。

また、以前関わりのあった業者の方がイベントに来ていたという事だが、その事実をこちらは知らない。

事務局を尋ねて来たこともない。2022年に関してだが、長年付き合いのあったイベント会社と関わったということは一切ない。

中項目 2. ボランティア主体である組織土台の脆弱性について考える

質問① 実行委員会全体で情報共有し、共通認識を持つためのガバナンス強化。今年問題となった資料の件もそうだが、現場に近い部署から上の部署へ情報を伝えるためのコミュニケーションがうまくできておらず、実行委員会内での情報共有システムが成り立っていなかったと思う。

大きな組織ゆえにそれが様々な問題の原因になっていると感じる。今後の改善策があれば伺いたい。

回答① 「現場から上の情報共有がなされていない」というご指摘だが、これに関しては反省する点はもちろんある。組織運営をしていく上ではしっかり取り組んで行かなければいけないと思う。

そのために俯瞰的な立場で見られるような形の”組織管理グループ”を作ったので、これを機能させなけ

ればならないと思っている。

質問② ボランティアスタッフの負担軽減策や大会規模を見つめ直すについて。

情報共有システムがうまく成り立っていないために、現場のスタッフの負担が増え、混乱するケースが多々あるようだ。最悪の場合、命に関わる危険すら感じているスタッフも中にはいると聞いている。経験値の高い現場スタッフや出演者たちのその場の機転でなんとか凌いでいることも多いように感じる。現在のトップダウンの連絡網を見直し整理するとともに、正常な管理が困難であるなら、大会規模を縮小し土台固めから再出発するべきだと思うがどうか。

回答② 「ボランティアスタッフの負担の軽減」については、実行委員会の中でもいろいろ話し合っているところだ。様々な場面、例えば迷子、救護、インフォメーション、天使の羽ってという呼び方をしているゴミ拾い、車椅子を手配して足に障害を持っている方たちへのサービスなど、様々なボランティア活動をしている。この方たちは、経験値も高くすぐれた活動をしている。このボランティア組織は大事にしなければならないと考えている。

その一方で負担の軽減というのも考える必要がある。その負担の軽減というのが金銭的なものなのか、それとも人数を増やしていく事なのか、あるいはその責任の所在をもう少し明確にしていくとか、組織論的なものなのか。これから研究して改善をしていきたい。

質問③ 問題が起きた際、対応する意思決定者と責任の所在について。

組織の風通しの悪さが責任や意思決定者の所在についてモヤモヤさせている。

トップの実行委員長が全ての責任を負ってしまっている状態になっていて、組織内でも役割と責任の分担を明確にしていくべきだと思うがどうか。

回答③ 意思決定者については、大道芸実行委員会の場合はFD会議と、実行委員会全体会議という二つの決定機関がある。何らかの課題が生じた場合には、この会議をもって議論をして決めているので、実行委員長に全ての責任を負わせているわけではない。決定事項に関しては議事を経て決めるようにしている。ただ、前プロデューサーの発言問題に関しては実行委員長が、「これは私が責任を負わなければいけない」という強い意志のもとで自ら引責辞任をした。そうしたケースはあったが一人で決めたわけではなく、FD会議のメンバー、静岡市の方々と深夜まで及ぶ会議を経て決定をしている。

3. 今後の運営方針について

中項目 1. 失った信頼をどう回復していくか

質問① 関係者へ向き合い、透明性の確保、公正公平な運営の進め方

回答① 関係者への向き合い透明性の確保、公正公平な運営の進め方については、非常に重要な事なので、しっかり取り組んでいきたいと思っている。ホームページなどを通じて、実行委員会がどういう状況にあるのかなど、できるだけ発信をしていかなければいけないと思っている。

質問② 日本で最大規模の大道芸フェスティバルとして、文化を育て見本となるイベント作り

大会規模だけにこだわらず他のイベントとも連携をとり、大会に関わる全ての人と共に文化を作る意識を持ってほしい。大会中に意見交換ができるオープンな場があればいいと思っている。

回答② 実行委員会の中では、まだ今後について詳細な形は何も決まっていない。これから話し合っ、姿を考えていかなければならない。

ただ、大会規模が大きければ良いというように思っている実行委員は、あまり多くないように思う。

中身の方が重要だということは感じているので、規模だけを追求するのではないという事だ。
もう一つ、文化という意味でいうと、大道芸ワールドカップin静岡の素晴らしいところは、卓越した技を披露するアーティストの皆さんは元よりだが、やはりボランティアの皆さんだ。
ゴミ拾い活動、迷子の担当、フェスティバルのリポートを書く広報の担当者等、全てボランティアだ。
この方々の活動こそが、静岡のすごく良い文化だと思っているので、大切にしていかなければいけないと思う。

中項目 2. クリーンでオープンな運営を目指す

質問① 共催である市と今後の連携・情報共有について

回答① 市とは今後も強く連携していきたい。

質問② 組織全体の今後の監査体制について考える

事業報告書には収支報告が記載されていないのでこれを記載して欲しいと思う。

そして今後の監査体制をどう行っていくかをご説明いただきたい。

回答① 収支報告について、これに関しては 2022 年度の事務処理を現在行っている。

最終的に決算ができるのは 3 月以降になるが、その段階では出来るだけ発信をしたいと考えている。

以上